

事後評価シート

調査研究課題名	環日本海経済圏の発展可能性を考慮した港湾物流のあり方に係るグランドデザインの検討に関する調査
担当者	研究調整官 高田 直和 前研究官 小林 隆之 研究官 亀田 吉隆
①当初目標と目標達成度	<p>北東アジア、極東ロシア等からなる環日本海経済圏において構想されている種々のプロジェクトが実現した場合に、我が国（特に日本海側地域）に及ぼす経済波及効果について、空間経済学的手法を用いて試算を行った。この試算は、環日本海経済圏において構想されているプロジェクトが及ぼす経済効果を織り込んだ日本海側地域の将来ビジョンやグランドデザインを描く際等に、示唆を与えようとするものである。</p> <p>本調査における試算の結果、環日本海経済圏の各種プロジェクトが進展する事により、日本全体に対して、また、特に日本海側地域に対し、より大きい経済的インパクトが期待できる事が、日本全体及び地域別の経済効果や貿易額の変化等を数値化することによって具体的に示す事が出来た。よって、当初の目標を達成することができた。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>本研究では、環日本海経済圏における各種プロジェクトの情報を収集・整理し、日本に対してどのような経済効果等を与えるかについて、プロジェクトの効果の大きさを考慮した3パターンのケース（効果最大、中位、最小）を設定した。さらに、国際物流需要予測モデル、SCGEモデルを用いて、その効果に関する経済分析を行い、経済活動の変化により生じると予測される経済効果（帰着便益）や生産額、貿易額の変化を計算した。また、この計算結果と関連する交通政策審議会の答申等各種計画や提言等を整理し、日本海側地域の今後のあり方に関するグランドデザインを描く際に参考となるようまとめた。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>環日本海経済圏における各種プロジェクト等に関する情報収集のための北陸地域の現地有識者との意見交換や、モデルの検討等のための学識経験者等によるアドバイザー会議を行うなどして、的確な意見・示唆を受けながら調査研究を進める事ができた。</p>
④成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで公表し、また、関係者等へ情報提供することにより、成果を有効に活用してもらおう。</p>
⑤その他	<p>PRI Review 第28号（2008年春）、第31号（2009年冬）に掲載。</p>
意見	